

地域とともに 中日青葉学園

みなさま、こんにちは。青葉通信をご覧いただきありがとうございます。前号では中日青葉学園の歴史を特集として取り上げました。今回は、学園と地域との関わりについて学園の目標をお伝えします。また、社会的養護における国の動向についても少し触れさせていただきます。

学園は、地域とのつながりを大切に、地域の皆さまと共に成長し続けることを目指しています。具体的には、地域でのボランティア活動や地域イベントへの参加、また地域の方々からの支援ニーズに積極的に対応すること、支援においては行政協働の可能性も含め、地域社会に貢献していきたいと考えています。

地域コミュニティの一員として活動すること、子どもたちに地域社会の一員としての意識を育てること、この二つは今後の養育において大きな可能性を感じさせるものです。子どもたちは、地域の人々と触れ合い、協力すること、地域の中で育

まれる感覚を持つことで大きく成長します。広い敷地に囲われ、施設しか知らない子どもたちの生活では、社会性や自己表現を果たすことは難しいのが現状です。社会の価値観や地域の温かさに触れることにより、子どもも職員も成長できるものと考えています。

現在、学園は地域の皆さまから多くの恩恵を受けています。地域の企業や団体からの支援、地域の方々からの寄付やボランティア活動への参加など、地域全体の協力により、学園は青葉まつりを中心とした活動、環境整備等、多くの自己実現が図られています。子どもたちにも、地域の皆さまの思いを大いに感じ取ってほしいと思っています。

地域を生活の場とする分園三つ葉は、地域に直接触れ、子どもたちがその恩恵を感じ取ることができるよう建設しました。本園共々、地域交流を通じて地域と一体になって子どもたちの成長を支えることが、私たちの一願です。

例えば児童福祉法改正により、施設児童の生活場所の地域移行（グループホーム等）の枠組みが整備され、地域で生活する養育効果が期待されています。社会的養護制度、政策と地域の連動性は、

青葉通信

第27号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園
電話 0561(72)0134

夏のメインイベント

諦めず
プレー

今年の県児童福祉施設長会夏季球技大会の結果は、卓球部は4年連続団体戦優勝の快挙を遂げました。女子中高生の部も優勝・3位、小学生の部は2位という結果を残しました。何人かの児童は学校でも卓球部として活躍しており、今も練習に励んでいます。ソフトボール部は4位でした。目標としていたメダルまであと一歩という悔しい結果になりましたが、初めての児童が多い中、お互

声を
掛け合い
助け合う

今年の夏のキャンプは、昨年と同じ篠島でした。同じ旅館を利用したこと、子どもたちは昨年を思い出しながら安心して活動できました。体験では、昨年出来なかったことに挑戦したり、海を中心に過ごし、楽しい思い出作りができました。旅館の方や島の方にも元氣よくあいさつし、



子どもたち同士で声を掛け合って助け合う姿など見られました。一年間の子どもたちの成長を感じ取れました。

(大澤卓矢)



(長谷川恵)



夏を
満喫

あおば館の夏は楽しい行事がでんこ盛りです。日焼けで真っ黒になる海キャンプや、ものづくりをする体験キャンプ、2ホーム合同BBQ、手作り流しそうめんなど。子どももの「やりたい!」がきっかけになる時もあるが職員員の「やりたい」が



きっかけになる時もあります。みんな夏を満喫したい!という気持ちがあるふれた笑い声としてこたえま

(辻本千絵美)



子どもたちが安心して成長できる環境を提供するために非常に重要です。施設と地域が協力して子どもたちを支える仕組みを構築することで、より良い未来を築いていくことができます。

中日青葉学園も、これらの動向に基づき、施設の運営や支援体制の強化に努めて参ります。

「地域とともに」を目標とする青葉学園。地域への貢献に力を入れる一方で、地域からも大きな

一隅を照らす

中日新聞社会事業団理事長 林寛子



「一隅を照らす」——これは、私が最初に中日青葉学園であいさつした時にお話した言葉です。その時は、アファグニスタンなどで灌漑事業に尽力した中村哲医師の座右の銘として紹介しました。

天台宗を開いた最澄の言葉で、「一隅を照らす者、これ国の宝なり」と続きます。

この言葉について、ここで少し補足しようと思います。

実は、ずっと若いころ、先輩記者に、この言葉を知っているかと聞かれました。まったく知らないと言え

た私は、卓上の電気スタンドの明かりを思い浮かべ、そんな「小さなこと」をする人が、国の宝なのかと不思議に思ったものです。

中村医師の座右の銘だと知ったのは、それからまた何年かのち、アファグニスタンで凶弾に倒れた後です。子どもが水たまりの水を飲んで病気になることのないように、井戸を掘ることから始めた氏の業績は、一隅どころか広く世界を照らしたかと思



今年度も多くの方々から寄付や招待など応援をいただきました
ありがとうございます (順不同、敬称略)

日進長老キリスト教会、中日新聞東刈谷専売店、大矢相互不動産、鈴木誠、溝口武志、フレベール、共生印刷、ヴァリダックス、ナゴヤドーム、中日新聞印刷、日進電気、中日制作センター、中日サービス、中日高速オフセット印刷、丸新舎、中日新聞保険サービス、中日企業中日ツアーズ、中日本開発、林由美、日進市農業委員会、根本英樹、兼松エレクトロニクス、中日シヨッパー、渋谷由美子、中日総合サービス従業員一同、中日オフセット印刷、中日総合サービス、中部日本ビルディング、福岡俊郎、都築、大楠弘記、西岡真代、カルビー、上田牧子、中田島峰雄、やまのふ梅坪店、伊藤美保子、名古屋クラパスエイト、村田伸子、澤出勝則、久野陽子、間瀬愛子、論吉のからあげ、松葉千恵美、村瀬勝美、近藤産興、日本特殊陶業、ドミノピザ、中部善意銀行、愛知池友の会、豊田自動織機、小川兼瑞臣、チュチュアンナ、イナバ食品、東海アイスクリーム協会、ミュージックレストラン、名古屋港冬花火実行委員会、村松泰平、慈眼寺、慶昌院、ハレレサンタ、名古屋中日会、日進グリーンハイツ、さんわコーポレーション、日本フラーデザインナー協会愛知県支部、三菱地所中部支店、名古屋食糧、春日建設、井澤真弓、竹の子会、中日森友隊、藤田医科大学病院、平岩、稲垣、匿名(上條実沙子)

みなさんのお役に 地域への貢献

フードパントリー

フードパントリーは、寺井学園長と日進市社会福祉協議会とのつながりからはじまりました。市社協とセカンドハーベス、ト名古屋に集まった食品や、日進市農業委員会か



いただいた野菜や食品たち



その野菜で作った料理
(写真送っていただきました)

らいただく新鮮な野菜（月1回）、青葉まつり等で集めた食材を、日進市の児童扶養手当受給世帯へ配布します。

開設して1年が経ちました。「いつもありがとうございます」と受け取りの際に仰っていただけです。これからも各関係機関と連携を取り、私たちも感謝を忘れずに取り組んでいきます。

（阿波根梨紗）

地元自治会との連携を深めて

東日本大震災の後、地域との連携を大事にしていると感じ、学園のあ

る地元自治会の清掃活動、夏祭り、防災訓練などに積極的に関わろうとされています。この取り組みを地域貢献の一環として継続、確実なものとするため、令和6年3月、日進グリーンハイツと協定を結び、災害時などお互いが困った時に助け合う約束を取り交わしました。同年11月には、学園で合同防災訓練を行い、自治会の方、学園職



（寺井陽二）

フォスタリングセンター

令和2年から活動を始め、5年目になりました。初年度に登録した里親家庭の養育者が、里親として体験発表をする姿も見られるようになりました。

現在、分園交流棟にて「三つ葉カフェ（サロン交流）」を開いています。委託された子どもたちは交流棟のプレイルームで楽しく遊びます。フォスタリング事業についてはリクルート事業のみ行っていますが、児童福祉法の改正を受け、里親支援センターとしての事業拡大もすれば包括的な



フォスタリング 日進市長表敬訪問

（阿尾匡晃）

里親を支える

里親支援専門相談員として、私は啓発活動や研修、里親サロン、家庭訪問などを通じて里親と里子の皆さんと関わっています。家庭養育の優先とパーマネンシー（継続性・安定性）の保障の観点から、里親宅での養育が増加しており、関係機関がチームで支援する体制が整っています。

里親制度を広く知っていただくことで、里親と里子が特別視されず、悩みの少ない社会の実現を目指しています。

子どもたちの育ちあい

地域とのつながりの一環で日進市の子ども食堂「日進絆食堂」に学園の中学生や高校生も参加しています。きっかけは淑徳高校のJRC部。日進絆食堂の子ども食堂、フードパントリーのお手伝いに参加しています。

「食」を通しコミュニケーションがとれる居場所作りのお手伝いは、参加した子どもたちの居場所にもなっており、参加者と気軽に学校や生活のことを話し合える場にもなっています。率先してボランティアをする姿に、子どもたちの育ちあいを感じます。



（河田祐哉）

施設は支援を受けることが多いです。でも地域の中で誰かの役に立てることは子どもにとっても貴重な体験だと思っています。

猫アツタカイ



日進市で保護猫活動をしていることを知り、「ぜひ子どもたちを連れて遊びに来てくさかい」と誘われたのをきっかけに、地域の保護猫活動に子どもたちも参加するようになりました。学園は地域の方々に多くのサポートをいただいています。子どもたちにも地域の活動に関わることで「つながり」を体験してほしいと考えています。また、猫が大好きな子どもたちにとって、触れ合う機会が少ない中で、良い経験になると思い参加しました。

会の方々からは、現在のペットを取り巻く現状や保護活動、飼育方、接し方について学び、触れ合う時間を持つことができました。初めて猫を手にした子どもが「かわい」ではなく「アツタカイ」と表現したように、小さな命と触れ合うことで得られるものは大きいのです。この活動は、地域交流だけでなく、子どもたちにとっても貴重な経験となりました。今後も継続していききたいと思っています。

（早崎幸代）

子ども会に笑顔で参加

今年度は、おんたけ子ども会に三つ葉の小学2年生、4年生の2人が参加しています。新入生歓迎会からはじまり、そこで顔合わせをしました。



工作教室、サバイバルゲーム、季節ごとのお祭り、お神輿から、夏休みには書道教室などといった、幅広い活動が用意されています。子どもたちもいつも笑顔で参加しており、地域の方々との交流も子どもたちの成長の一助となっています。子どもたちは地域とのつながりを深め、学園から自立した後の「戻ってくる実家、地域」としての大切な居場所づくりをしています。

（西澤啓吾）

PTAのつながり

地域支援課長として、北小学校の除草作業や日進中学校のペンキ塗りなど、PTAの活動に積極的に参加しています。これらの活動を通じて、子どもたちや保護者と直接交流し、地域とのつながりを深めています。

PTAは本来、子どもたちや保護者にとって身近な存在であるべきですが、私自身も参加するまでその本質を十分に理解していませんでした。しかし、実際に活動に参加することで、地域の学校や保護者との連携、情報共有の重要性を実感しま

した。同じ作業や交流会を通じて、地域の皆さんと直接話すことで「地域への理解」「地域からの施設の理解」を深める大切な場となりました。この考えは私だけでなく、学園の職員全員が共有し、今後も地域との連携を強化していきたいと思っています。

（早崎幸代）



学園では、毎年新学期を迎える前に「ラーメン訪問」という大切な約10年続く恒例行事を開催しています。東海麺ゆう会に所属する、愛知県の名な3〜4店のラーメン屋さんがコラボして、学園でしか味わえない特別なラーメンを提供してく



だえいます。例えば、麺は〇〇店、チャーシューは〇〇店が担当し、つけ麺や塩鶏白湯など、さまざまな組み合わせで美味しいラーメンを作ります。この「ラーメン訪問」は、職員と子どもたちが新学期を元気にスタートするための活力となる行事です。

（竜米貴）

第26回青葉まつりは今年も大盛況で、ボランティアや学園児童・職員を含め総勢七〇〇人が参加しました。この恒例行事は「地域との共生・助け合い」をコンセプトに進化しており、地域との交流を通じて子どもも職員も大きく成長しています。今年は元中日ドラゴンズのホームラン王、宇野勝選手も参加し、会場を盛り上げました。中日青葉学園と地域の一体感、今後目指す新しい社会的養護の姿を強く感じ



（倉橋幸彦）

毎年楽しい焼肉

韓国青年商工会の皆さんは、毎年子どもたちのためにおいしく味付けされたお肉、ジュース、アイスなど持参して、BBQをごちそうしてくれました。毎年来てくれるため、顔見知りになっている子どももいて、会えることを楽しみにしています。

このイベントは、普段は聞けない施設以外の仕事の話を聞ける機会にもなり、中高生にとって良い刺激となっています。また、施設以外の方々が自分たちのことを気にかけてくれていることを直



（伊藤洋一）

(竜栄貴)